
マジンガンマン

遊木 ガク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マジンガンマン

【Nコード】

N 6 1 3 6 Z

【作者名】

遊木 ガク

【あらすじ】

神か悪魔か流離いのガンマン降誕する。魔法と西部劇風の世界で彼は一体何を観るのか。お楽しみに！

プロローグへ出逢い（前書き）

初めまして、初投稿の遊木と申します。

緊張と羞恥の混ざった心中で、これを書いてます。えーと、とにかく初めての投稿なのどんな形になるか分かりませんが、最後まで責任持って完結させるの生暖かく読んでくれたら幸いです。挨拶が長くなりました。それでは、マジンガンマンお楽しみ下さい。

プロローグへ出逢い

灰色の砂と赤い岩山と少しのサボテンが支配する灼熱の砂漠　ヴ
アルゾント　昼間の気温は40　を超え、夜になれば氷点下となる
“強き生き物”しか生存を許さない土地
今、その不毛の大地をひとつの影があてもなくふらふらと進んでい
た。

「　暑い」

影の主はふと見れば暑さのせいで見える塵気楼か陽炎もしくは、
ボロボロの布切れを頭から纏った幽霊のように見える。だが、よく
よく見ればそれは男でちゃんと二本の足を引きずるように歩いてお
り、時折身に纏う布の中から、水筒を出して水を飲みながら、一人
ぶつぶつ「熱い」だの「疲れた」だの「もう死ぬ」というような泣
きことが聞こえただろう。

誰かが見ていればの話だが。

この砂漠には、少数のこの環境に適応した“強き生き物”しか生
息しておらず、しかもその大半が夜行性で獰猛な為、特殊な技能を
持つ人間を除く一般の旅人は限られた時期に昼間の灼熱の太陽に照
らされながら水の道標と呼ばれる目印を頼りに日が暮れるまでに“
オアシス”に辿り着かねばならない。そんな苛酷な砂漠の真ん中を
男は一人フラフラ（宛も無く）歩いていた。

クオォーン

男の近くに死を運ぶ怪鳥　ラパモール　が大きな影を落とすしゅっ

くりと着地すると、そこにあつた半ば腐りかけた骸を啄み始めた。
それを見たフラフラの男は立ち止まると突然誰もいないにも拘らず、フードを脱ぐと天を仰ぎ言った。

「ああ神様、俺は何か悪い事でもしたでしょうか。そりゃ、小さい頃はいろいろやんちゃしましたよ。いたずら大好きっ子でしたよ。隣のマーズさんの水リングを無断で10個ぐらい採ったりしましたよ。でもいいじゃないですかそんな昔のこと、あの後マーズさんにたつぷり5時間も叱られたんだからそれで、チャラにして下さいよ。もう、三日も水以外のものを口にしていないんですよ！貴方にもし慈悲の心があるのなら、俺に水と食べ物恵んでください。今すぐに！俺をこんな風にしないで下さい！」

実に身勝手で切実な願いだった。ちなみにこの間、地団太を踏んだり、両手を振り上げたりと全身全霊で力強く抗議する姿にそんなに力が余っているならさっさと進めよと突っ込んでくれる人は幸か不幸か、誰も居らずただラパモールが首を傾げるだけだった。

ひとしきり抗議を終えると男はまるで力尽きたように（自業自得）仰向けに倒れた。

フードを脱ぐことで頭わになった顔は若く大人になる手前のように深い森を思わせる暗緑色の髪を持つ爽やかな美青年といった容貌なのだが、今は目は虚ろで表情は半笑いしかも、独り言まで呟いているせいで爽やかも何も全て台無しになっていた。さらに詳しく見ると服装は上は前は腰まで後ろは脛脛までの動きやすいように肩の部分に切れ込みの入った貫頭衣ボンチヨのようなものを被っていて、腰には黒ずんだガンホルスターが見えた。

もう一度、男、いや青年はラパモールの方に首を向けると、今度はぼそつと呟いた。

「……うまいのかな」

瞬間、ピタツとラパモールの動きが止まるとジーと見つめてきた。まるで次はお前の番だと威圧されているようで居心地の悪くなった青年は一言「冗談だよ」とため息を吐くと青空を見上げて大の字になり、目を瞑り今度はなにかを諦めたような風に呟いた。

「……はら…減ったなあ」

瞼の裏に映るのはどれも御馳走ばかりで考えるだけで気が滅入ったが次の水の道標が何処にあるのか分らない今となつては何をしても変わらないように思えてきて、わざわざやめる気持ちも起こらなかった。

あれからどれぐらいここに倒れていたのか分らない。おそらく5分ぐらいだろうと思うが、このまま朽ちて自然の摂理のまま隣のラパモールにでも食べられるのかなあ、それもいいかなあと思体も無いことを思っていた時だった。

『奇跡』は起こった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6136z/>

マジンガンマン

2011年12月20日17時53分発行